ーれつ

全教会布教推進月間

従来から例年９月は「にをいがけ強調の月」ですが、教祖年祭活動のなかで、本年と来年の９月は「全教会布教推進月間」とお打ち出し頂いております。管内でも各地で、においがけが行われました。写真上：９月 14 日、伝道庁周辺にをいがけ。写真下：９月 22 日、MacArthur Park にて、路傍講演、よろづよ八首、神名ながし、パンフレット配り。

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.923

OCTOBER 2024

tenrikyo.com

つらつらせんがく 熟々浅学

― エレクトロハーモニクス（Electro-Harmonix）―

先月は、「全教会布教推進月間」でしたが、皆様はどのように過ごされましたでしょうか。

また、伝道庁では９月 14 日に秋季霊祭を執り行いましたが、先人の方々の御功績を忘れず、そして、その御功績を次世代に伝えると共に、私たちも先人に負けないような功績を遺して行きたいと思うのです。

現在は、教祖 140 年祭に向けて、更に“ギアアップ”して布教を推進する時期です。「成人の旬」、「たすけの旬」と言われる年祭活動期間、お互い邁進致したいと存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、私はこの原稿を書く時にはパソコンを使って書いていますので、正確には「書く」とは言えず、キーボードを「打つ」、または「タッチ」して「作成している」ということになるでしょうか。

その際使っているフォント（字体）は「MS 明朝体」です。他にも「**MS ゴシック体**」や「MS P 明朝体」や「**MS P ゴシック体**」を使うこともあります。書類などで少し格式高い（？）表現を文字で表現したい場合は「行書体」や「正楷書体」を使うこともあります。尚、「一れつ」掲載の「熟々浅学」では編集の都合上、違う「フォント」を使っています。

英語になりますと「Times New Roman」のフォントを使うことが多いですが、たまに「Arial」を使うこともあります。

さまざまなフォントを使い分けて文書作表現に変化を与えることができますので、資料作成の折には、その資料の内容に合ったフォントを使うように努めています。

強調したい語彙や文章だけを違うフォントにすることあります。例えば、「MS 明朝体」での文章の中で強調したい言葉だけを「**MS ゴシック体**」にすることもあります。他の強調の仕方では、強調したい語彙や文書の部分だけを「**ボールド（太字）**」にすることもあります。

パソコンの中にはさまざまなフォントが含まれていますが、Windows と Mac での共通していないフォントがあります。たまにですが、Mac 作成された文章がメールの添付書類で送られてきた時に Windows では認識できずに“文字化け”が生じて読めないことがあります。そうならないように編集できない形式（正確にはソフトをインストールしていれば編集できますが）の PDF 形式にすることで“文字化け”せずに文章データの送信ができて共有することができます。

さまざまなフォントの中に「エレクトロハーモニクス（Electroharmonix）」というフォントがあります。これはカナダ生まれの名古屋市在住の Ray Larabie 氏が 1998 年に考案したようですが、カタカナや平仮名をモチーフして作られたアルファベットのフォントのようです。

このフォントを使って２つの英単語と英語の疑問文を以下に記しますので、読んでいただきたいと思います。

1. **カモレレロ**
2. **モレモCナKロhムKホロウエメ**
3. **hロ山 ムKモ ソロリ?**

さて日本語のカタカタや平仮名を読める人で、何人の方が正確に判読できたでしょうか。答えは最後に記します。

私も最初は全く読めませんでしたが、このフォントでのアルファベットを覚えれば少しは読めるようになりました。しかし、まだまだカタカナに見えてしまいます。

日本人にとっては、このフォントを使って英単語や英文を書かれるとカタカナに見えて読めないようです。それは、先にカタカナの文字が頭に浮ぶために、文字をアルファベットとして認識でき難いことが原因のようです。つまり、カタカナという文字が脳内に記憶されているため、脳は「エレクトロハーモニクス」のフォントで書かれているアルファベットの単語や文章を、先ずはカタカナでの表記であると認識し、その影響により正確に判読できないということなのだろうと思います。つまり、“先入観”としてカタカナを記憶している脳内細胞が、このフォントをアルファベットとして認識して先に判読作業に入るため、このフォントでの英単語や文章をアルファベットとして認識できず、判読できないのだろうと思うのです。

しかし、日本語の文字を知らない人々は、「エレクトロハーモニクス」のフォントで書かれている英単語や文章をアルファベットとして簡単に認識できるようで、このフォントでの英単語や文章を簡単に読めるらしいのです。ですので、この巻頭言を英語で読まれている方は、何の問題もなく先述の英単語と英語の疑問文を読めたのではないでしょうか。

このことを通して、私は３つの事柄を教えてもらっているように思えます。

一つは、“先入観”がない時に物事を教えることの大切さです。

明治33年11月16日のおさしづに「小さい時から心写さにゃならん」とありますように、“先入観”を持っていないと思われる年齢の時に教えを間違えなく伝えることが大切さを教えてくだされていると思うのです。そうすれば、素直に教えを身に付けることができるのではないかと思うのです。

二つ目は“先入観”を持たずに物事を伝えることの大切さです。

教えを“先入観”なしに素直に伝えることは意外と難しいかもしれません。人に教えを伝える時に、どうしても伝える側の心情や経験が混在してしまいますし、伝える側の解釈を自然に加味していることがあると思うのです。

三つ目は、常に“先入観”を持って教えを見ていないか、教えを解釈していないかと点検することの大切さを教えてもらっているように思うのです。

人間は経験を積んで行き、さまざまなことに対処できるようになります。それは非常に大切なことです。過去の失敗を糧にして成功へと進めるようになるのが人間でしょうし、そのようなことの積み重ね、つまり失敗と成功の繰り返しで世の中は成り立っていると思うのです。しかしながら、教えに関しては自分自身の解釈を入れてしまうと教えを曲げてしまう恐れがあると思うのです。そのため、“先入観”なしに素直に教えを実践しているのかを、再々チェックする必要があるように思うのです。そのために、常に教えを学ぶことは必要なのだろうと思うのです。

皆さんはどのように思われるでしょうか。

答え：

1. Hello
2. Electroharmonix
3. How are you?

深谷　洋

立教187年9月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、“月日にハせかいぢうゝハみなわが子　たすけたいとの心ばかりで”との深い思召のまに／＼、永の年限、尽きることなき御守護と幾重のお仕込みにより、一れつ人間の成人をお見守りくだされ、お導きくださいます御高恩の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は、及ばぬながらも御恩報じを念じて、日夜勇んで世界たすけの御用をつとめさせていただいておりますが、その中にも今日の吉日は、当伝道庁の九月の御祭りを執り行う芽出度い日柄に当たりますので、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみによふぼく、信者一同が参り集い、日頃賜る御恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りしたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、当伝道庁の立教百八十七年秋季霊祭を滞りなくつとめ終えさせていただき、誠に有難うございました。これからも霊様方の御功績を礎に、更なる道の伸展に努めたいと存じます。

私共は、世界中で起きている戦争や紛争の治まりを願い、また、自然災害の被災者や身上、事情を抱えている者のたすかりを願い、全教会布教推進月間の本月を、管内の教友一同が一段とにをいがけ、おたすけに力を注いで勇んで通りたいと存じます。また、御教えの素晴らしさを次世代に伝えて、更なる道の伸展を目指して、教祖百四十年祭年祭活動二年目を邁進したいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいまして、至らぬところ、届かぬところは幾重にもお仕込みくださり、尚も変わらぬ親心を賜り、一日でも早く世界の人々が睦び交して暮らせる陽気ぐらしの世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

９月月次祭神殿講話

玉島ロスアンゼルス出張所長
川田 一行

只今は、庁長先生ご夫妻を芯に、皆様方と共に九月の伝道庁月次祭を勇んでつとめさせていただき、ご同慶に存じます。神殿講話の御命をいただきましたので、しばらくの間お付き合いの程よろしくお願い致します。

さて私は、2000 年の秋、家族と共にこちらにまいりまして、一年と半年伝道庁に住み込ませていただいた後、直属である玉島大教会のロスアンゼルス出張所の所長としてつとめさせていただいております。また、2003 年の春ごろから伝道庁の広報委員会の一員として、一れつの編集をつとめさせていただくこととなり現在に至っております。お陰様で以来約 20 年間にわたり、無事に毎月発行させていただくことができましたのも、誌面を手にして読んでくださる皆様はもちろんのこと、たくさんの方々のサポートのお陰であると感謝させていただく次第です。この場を借りて御礼申し上げます。

本日は、広報委員会の一員として、そして一れつの編集を通して感じましたことなどを、お話しさせていただきたいと思います。とりとめのない話になるかと思いますが、そこは聞き取り上手にお願い致します。

私が編集をさせていただくようになった頃は、既にコンピューターで編集を行い、接続されたプリンターで印刷ができるようになっておりましたが、まだデジタルカメラは一般に普及しておらず、毎月編集作業にあてていた第二の週末には必ず伝道庁にて、現像された写真を手にして選び、スキャナーでコンピューターに取り込む作業をしておりました。現在であれば、携帯電話で写真を撮り、それをそのまま送れるわけですから、技術的な進歩の速さについては本当に驚くばかりです。また、しばしば FAX で送られた手書きの原稿があったりもしましたが、いまでは先ずお目にかかることはありません。編集する私としてはとても便利になり当時と比べて、作業は軽減されています。そして、何と言いましても、翻訳原稿の精度が素晴らしく良くなりました。日本語から英語への翻訳については分かりませんが、英語から日本語への翻訳は飛躍的に

向上したと思います。この点は翻訳委員会の皆様に感謝する次第です。

私が編集作業に携わるようになったのが2003年で、翌年は伝道庁の創立70周年記念祭の年でした。広報委員会では伝道庁創立50周年から、具体的には1983年から2003年までの、21年間にわたる伝道庁の記録を20年史として年譜表にとりまとめて冊子とし、来たる70周年記念祭に管内各拠点へ記念品として配布する計画が立てられました。当時広報委員会の委員長をつとめられていた冨沢先生を中心に準備が始まり、私は一れつの編集を行っていたこともあり、出来上がった原稿を誌面に割り付けて、体裁を整えていくという作業を担当することとなりました。年譜表の内容は、伝道庁での行事開催についてはもちろんのこと、毎月の月次祭で神殿講話をつとめられた先生、また伝道庁人事で任命された各委員会の委員など、資料としてかなり細かい記録がありました。もともと将来、アメリカ伝道庁百年史編纂の助けになるようにとの編集方針で、前半の10年分は当時伝道庁にて書記をつとめておられた平野先生が、後半の10年については冨沢先生がまとめられました。編集する私は、一年分が誌面にしますと６～７頁になる原稿とそれに関連する10枚程度の写真を合わせて21年分、時間はかかりましたが一冊の本にまとめ上げることができました。

当時、私はこちらにやって来たばかりで、伝道庁で過去にあった出来事であったり、また、管内のことなど全く知りませんでしたが、図らずもいただいたこの編集作業のお陰で、創立50周年以降の20年間ではありますが、詳しく知ることが出来ました。また誌面に掲載された写真だけでなく、その他にも使われなかったたくさんの写真を目にし、活気にあふれる当時の様子を感じることができました。記念祭で配布された冊子の編集後記にて、冨沢先生が記載の21年間を総括し、「管内の教会では50件の任命のお運びがあり、50人の新任教会長さんが誕生しています。布教所、出張所の開設も50か所を超えています。管内にとっても歴史的な激動期だったのかもしれません」と記されています。創立70周年記念祭当時で20年前、今年の6月に90周年記念祭を終えた今からすると40年前の事になりますが、こうした時代の流れを知ることができ、自分にとって大変ありがたい機会でした。また、この後も似たような御用をさせていただくことになろうとは、その時は全く思いもしませんでした。

さて、その後も一れつ編集の御用を毎月続けさせていただいておりました。今からちょうど10年前の2014年、ご存知のようにこの年は伝道庁創立80周年記念祭が6月につとめられました。そのちょうど一カ月前に、一れつは創刊800号を数え、それを記念して数カ月にわたり、一れつ創刊当時の歴史を振り返るという特別企画を掲載させていただくこととなりました。当時の様子を振り返るとき、世界大戦という大きな時代の流れを無視することはできず、企画用に収集した資料にも多々見受けられました。

皆さんは日本の山崎豊子という作家をご存知でしょうか。私はこの方の小説が好きで、日本にいたころよく読んでおりました。実際にあった出来事を題材として、徹底的な取材をもとに書かれたその作品のほとんどは映画に、あるいはテレビのドラマとして映像化されていますので、ご覧なったことがある方も多いのではないでしょうか。そんな彼女の作品の中に「二つの祖国」という小説があります。NHK の大河ドラマで「山河燃ゆ」というタイトルで映像化されましたので、ご覧になった方もあるかと思います。こちらアメリカでも放映されましたが、直後に日系社会から抗議があり放映中止となりました。といいますのも、物語は日系二世の主人公を中心に、日米開戦当時から終戦後まで、舞台はここロサンゼルスで始まり、そこに暮らす日系人社会の苦難の歴史が描かれていたからです。どうしても物語は主人公の視点から語られるため、それによって日系人への誤解が生じることを懸念されたためでした。

この小説を読んだ当時、まさか自分がその後にロスアンゼルスで暮らすことになるなどとは思いもしませんでしたので、ただ純粋にそこに書かれている当時の日系人社会の状況を事実として知りました。作中にサンタアニタという地名がよく出てきたのですが、こちらにまいりましてからしばらくして、どこかに行く運転中だったと思いますが、道路標識にサンタアニタと書かれているのを見つけました。しばらくすると競馬場らしき大きな建物も見えてきて、とても感慨深かったのを覚

えています。

さて、話を一れつの特別企画に戻しますが、800 号記念企画として行われましたのは、古い一れつに掲載された記事の再掲載でした。具体的には 1974 年 231 号から 237 号に亘り掲載された、婦人会の方 9 名による座談会でした。西暦の末尾が 4 という数字ですのでお気づきの方もおられるかもしれません。この年は伝道庁創立 40 周年でした。座談会では、9 名のご婦人さん方が伝道庁設立の頃から終戦頃までのそれぞれの生活、伝道庁の様子などを詳しくお話しされており、まさしくそこで語られていることは、先にご紹介した小説に書かれていることと同じで、50 年前に当時ご活躍されていた婦人会の方々が実際に経験されたお話は、本当に衝撃的であり、今、ここで何の不自由もなく生活をし信仰をさせていただくことができるありがたさを感じました。また、この時に一れつの創刊号も実際目にする機会がありました。それは 1947 年発刊で、

終戦から２年後のことでした。この創刊号に、当時庁長をおつとめになられていた橋本正治先生が、一句詠まれていました。

新しき年あけにけり
再びの首途寿ぐ　同胞が上に

ご自身は、発刊当時はいまだ仮釈放中の身で、ニュージャージー州にある缶詰工場で働かれていることが記されていました。本当に大変な時代であったことが偲ばれます。

もし、私が一れつの編集に携わっていなければ、こうした過去の事実を知ることはなかったと思いますし、おそらく製本された一れつを受け取ったとしてもそこまで深く読むことはなかったでしょう。記念企画座談会の冒頭で、「”古い道ありて新しい道ある”とお言葉にございます様に、アメリカの道も、先輩諸先生のご苦労の道中があって、今日があるのだと思います。先人の通られた道をたずね、知ることにより、これからの道しるべとも、励みともさせて頂きたいと存じます。」と記されていましたが、まさしくこうした気持ちで編集をしながら読ませていただきました。また、昨晩は秋の霊祭をつとめさせていただきながら、先人の方々のご苦労を偲び、そのご功績に感謝させていただいた次第です。

諭達第四号に、「教祖お一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通り、私たちへとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。」とお示し頂いております。私は、90周年記念祭にたくさんの若い方々が勇んでひのきしんをつとめられる姿、また、その前日に行われた、青年会婦人会70周年記念合同総会にて、神殿を埋め尽くす大勢の若い方を見て、これからのお道の行く末を大変頼もしく感じるとともに、先人の方々のお陰で、こうした結構な姿をお見せいただいていることに感謝の思いを感じました。また同時に、我が子はもちろんのこと、次の世代に信仰の喜びとありがたさを伝えて行かなければならないと痛感した次第です。

昨年、日本で流行った歌の歌詞にこんな一節がありました。「この道が続くのは、続けと願ったから」。当然歌詞に出てくる「道」は私たちが信仰しているこの「お道」のことではありませんが、とてもいい歌詞だなと思いました。そして、私たちはただこのお道が続いてほしいと願うだけでなく、伝道庁に足を運び、おつとめをつとめ、身に行ってこその信仰です。踏み出す一歩はあまり大きくないかもしれませんが、一歩一歩の積み重ねです。末代続く道を目指して、まずは2026年の教祖140年祭を目指して、勇んで日々を通らせていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

伝道庁連絡

9月月次祭

祭　主　　庁長
扈　者　　岡崎マーロン　川上和海
賛　者　　清水ロバート　伊藤伊智郎
指図方　　田中知義
神殿講話　川田一行（日）

教会事情

加奈陀教会：臨時祭典願、恒例祭日臨時変更願
　おはこび：2024年4月18日
　創立90周年記念祭：2024年12月1日
ブラザーフッド教会：任命願、臨時祭典願
　おはこび予定：2024年11月26日
　後任教会長：ブラウン・レイモンド・ジェームズ
　奉告祭：2025年2月8日
カリフォルニア教会：電話番号変更
　新しい電話番号：(323) 243-2257
　　※大西知会長の携帯電話番号
ハイシャスタ布教所：電話番号変更
　新しい電話番号：(425) 299-9179
　　※浜田和子夫人の携帯電話番号

お出直し

10月6日午後1時30分、少年会アメリカ団副団長をおつとめくださっていた土手ウエスリー氏が出直されました。享年59歳。ご生前のご功績に厚く御礼申し上げます。

みたまうつしは2024年10月6日（日）午後2時に執り行われました。告別式は2024年11月16日（土）午前11時よりSacramento Memorial Lawnにて執り行われます。

尚、ご遺族より、御供（玉串料）などはご遠慮いただきたいとのことです。

天理教語学院（TLI）日本語科入学願書及び志願者のための一れつ会扶育願書

2025～2026年のおやさとふせこみ科の出願要項は以下のようになっております。願書を取り寄せる必要がありますので、入学を希望される方がいる場合はお早めに伝道庁までご連絡ください。

出願期間：2024年10月1日～10月31日
（※ただし、日曜日、祝祭日、10月26日午前は除く）
出願資格：以下の条件を全て満たす者
1) 本国で正規の課程による12年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者
2) 海外の教会長、布教所長の子弟、またはそれに準ずる者で、入学時にようぼくの者
3) 本校日本語科卒業（見込み）の者、または「日本語能力試験N３」以上の日本語絵力を有する者
4) 卒業後、将来自国においてお道の用務に従事する予定の者

天理教語学院ホームページ

よふぼくの集い

11月16日(土)によふぼくの集いを開催致します。開催時間は午後2時30分から4時30分までの予定となっております。夕勤後に懇親会を行います。
参加希望者は、以下のURL、またはQRコードからお申込みください。
https://forms.gle/rp5V9PhGacq9V4E59

修養科について

修養科英語クラスが来年3月末から3ヶ月間、おぢばにて開講される予定です。日本国査証の必要な志願者は、査証取得に時間がかかりますので、お早めに伝道庁にお知らせください。尚、何らかの理由で修養科英語クラス開講の中止、また査証取得ができない場合がありますので、ご了承ください。

一れつ会特別扶育生募集

2025年大学入学予定者に対して、「一れつ会特別扶育」の募集をします。締切は12月31日です。

祭典役割

祭典参拝の有無、或いは変更は、参拝予定月の前月月末までに伝道庁に連絡して下さいますようお願い致します。例えば、11月月次祭参拝有無に関しては、今月末（10月31日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。

各会連絡

教化育成委員会

・2025 年度のスリーデーコースは、2 月 21（金）～ 23 日（日）の日程で開催されます。英語コースは 4 名以上の申し込み、スペイン語コースは 2 名以上の申し込みがある場合に開催されます。
・おやさと練成会
　※ 2025 年度のおやさと練成会対象者に、おやさと練成会事前講習受講の案内の連絡をしています。
　※今年のおやさと練成会事前講習は、おぢばで開催されるおやさと練成会参加に必要な講義に加え、TSA 冬季練成会のお楽しみ行事にも参加できるよう工夫し、学生が同年代の学生と絆を深める時間や、伝道庁の施設やスタッフの方を知れるようなスケジュールを計画しています。
　※おやさと練成会事前講習と、2025 年おやさと練成会の女性カウンセラー候補者に連絡をとっています。
　※おやさと練成会事前講習のインストラクターと講師の候補者に連絡をとっています。
　※おやさと練成会に関連する費用をサポートするため、10 月と 11 月にベイクセールをします。
・TSA 冬季錬成会は、12 月 26（木）～ 29 日（日）の日程で開催されます。

広報委員会

・教祖 140 年祭に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ･ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
　情報提供先
　川上 kamishuyo@hotmail.com）
　林（takhayashi@gmail.com）】
・90 周年記念祭時に展示していた「90 年の歩み：写真展」は、11 月の月次祭までひのもとラーニングセンターにて継続して展示されます。
・伝道庁ホームページ
90 周年記念祭のスナップショットを掲載しております。更に今後は、各イベントの写真・動画等を掲載していく予定です。
・Stories Inspired by Oyasama」動画、「SoulFire」の記録ビデオ、祭典講話、Podcast 等が視聴出来るようになっています。是非、伝道庁ホームページをご覧いただき、また周りの方々に紹介いただきますようお願いします。
・「Members」用のパスワードは、「joyouslife」です。

翻訳委員会

・海外部翻訳課の翻訳会議が、11 月 4 ～ 8 日の期間でハワイ伝道庁にて開催されます。
・英語 SDM 翻訳会議が、10 月 29 ～ 11 月 2 日の期間でハワイ伝道庁にて開催されます。
・再翻訳された稿本教祖伝逸話編が、教祖 140 年祭前に出版される予定です

Future Path 委員会

・2025 年に天理教教典の勉強会を開催予定。

婦人会

・天理教婦人会総会
　～ 全ての会員がおぢばへ 人を誘っておぢばへ ～
　２０２５年４月１９日（土）
　午前９時３０分より　　於　本部中庭
・別席強調月間
　立教１８８年３月１日～４月３０日
・地区総会
　シカゴ地区（変更）10 月 27 日（日）
　　ミッドウエスト教会
　カナダ西部地区　11 月 3 日（日）
　　グランビル教会（変更）

少年会

・鼓笛隊員募集中：道の友と一緒に「一手一つ」の鼓笛活動をしませんか？たすけあいや、人のために尽くす喜びを学べる活動を行ってまいります。詳細は【moto1884@gmail.com】まで。
・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきましょう。
・新生児や転入された少年会委員がおられましたら、上記メールアドレスまでお知らせください。

NY センター

・NY 地区　第 3 回よふぼく一斉活動日
　11 月 3 日

LA 地区婦人会総会

去る９月 29 日 (日)、婦人会員 48 名の参加のもと、ロスアンゼルス地区婦人会総会が開催されました。よろづよ八首総立ちの後、深谷宏美アメリカ婦人会主任様の講話を聞かせて頂き、グループに分かれてねり合いがおこなわれました。午後からは、美味しい昼食を食べながら、ビンゴゲームを楽しみ、会員相互の親睦を深めました。

成人の節目、教祖１４０年祭に向けて

～サンフランシスコ・サクラメント地区～

９月２日、晴天のなか、サンフランシスコ・サクラメント地区共催の「天理教バーベキューピクニック」が開かれました。35 名の参加者が集まり、楽しい時間を過ごすことができました。2002 年から始まった行事ですが、コロナ禍をのぞき毎年開催の恒例行事となっています。

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE

TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God`s children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

"With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed. The mind alone is yours." Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.